

令和2年度第2回瀬戸市図書館協議会
議事録

日時：令和3年3月24日（水）午後3時00分から5時00分まで

場所：瀬戸市立図書館 1階 集会室

出席者：11名

<委員> 中井 孝幸（会長）、加藤 和守（副会長）、秋山 理咲子、石川 良文、
加藤 絹子、新海 弘之、福田 直美、馬宮 孝好

<事務局> 教育部長 林 敏彦、図書館長 吉村 きみ、図書館主事 村井 理紗子

<オブザーバー>株式会社 リブネット 房延 潤一

欠席者：〈委員〉丹羽 光成、早川 寿

傍聴者：2名

議事内容：

1 開会

事務局（図書館長）進行

- ・会議成立の報告
- ・傍聴者へ注意事項の説明
- ・委員へ議事内容記録のための録音の説明
- ・資料確認

2 あいさつ

○教育部長

年度末のお忙しい中お集りいただいたことに感謝申し上げます。本日は図書館の利活用計画についてご議論いただく。皆様の忌憚のないご意見をいただき、新年度に繋げていきたいと考えているので、よろしくお願いします。

3 議事

○事務局（図書館長）

議事に移る。議事の進行は、会長にお願いする。

○会長

私の大学では、コロナ禍であるが、昨日無事に卒業式を迎えることができた。全員が集まって行うことは出来なかったが、各研究室で卒業証書を渡すという形で対面式で行った。一昨年はコロナが始まったばかりであったが、現在は少し落ち着いてきているとはいえ、まだまだ三密を避けた生活が続いていくと思われる。全国の図書館でも色々な工夫をして開館をしていると聞いている。昨年、9月にコロナ禍であったが、滋賀県の長浜の図書館で、来

館者アンケートを行った。その前の年に、古い図書館でも調査を行ったが、利用者の数はあまり変わらなかった。そういったことから、図書館を使っている方は、図書館を使い続けているということが言えるのではないかと思う。ですので、出来るだけ頑張って開館をしていただき、市民の学びをサポートしていただきたいと思う。今日は、図書館利活用計画についてご議論いただくので、活発なご議論をお願いしたい。

(1) 新規図書館サービスについて

- ・セルフ貸出サービスについて 資料1に基づき事務局（図書館長）より説明。
- ・電子書籍貸出サービスについて 資料2に基づき事務局（図書館長）より説明。

○委員

電子図書館について、さっそく利用させていただき、とてもよいものだったと思った。本格的な読書の時間が無い方も気軽に読むことができる。難しい本はないが、社会科学や自然科学等の教養本が多く、普通の人もものすごく利用できると思う。ただ、先ほどの説明であったが、視覚障害者の最初の導入については、健常者が教えることが必要か。

また、セルフ貸出について非常に良いと思うが、返却はなぜ出来ないのか。休館の時は、返却ポストに本を放り込んで行うことができるし、返却で列に並んでいる人も結構多い。

○事務局（図書館長）

まず、電子図書館システムについて、視覚障害者が一番初めに使う時にどうすればよいかという点について、視覚障害者の利用者の方に聞きに行った。パソコンを普段から利用している人は、図書館にそういったサービスがあることを知れば、その画面（図書館HP）に行き、読み上げ機能を使い、サイトのトップに視覚障害者用の表示を持ってきたので、早い段階でそれを読み上げてくれるので利用可能であることを確認した。図書館のHPに行けばいいということを教えてもらえれば、利用出来るということだった。使い勝手がどうかということも確認したが、十分使えると言っていた。視覚障害者が情報をキャッチするところについても聞いてきたので、そこに宣伝していきたいと考えている。私たちが知らせていくことが大事なので、委員の皆様も宣伝してほしい。

また、セルフ貸出でどうして返却をしないかという点について、返却ポストの場合は返却してしまったら、返した人が「もう一回借りたい」と思っても、取り出すことが出来ないこと、職員が取り出すまで誰の手にも渡らないということがある。セルフで返却をさせた場合、これは予約が入った本なので、引き続き借りることが出来ないというメッセージを出すことが出来るが、見逃したり、どうしても借りたいと持っていかれてしまうと、予約のシステムが崩れてしまうので今の段階では返却もセルフにすることは難しい。今後どのような方法があるかということを考えていく必要があるが、今のところ貸出のみの運用となっている。

○委員

電子書籍は、今後どのくらい増やしていく予定か。

○事務局（図書館長）

現在 800 タイトルであるが、毎年予算計上していき、来年度は 1,000 冊入れる予定である。

○委員

電子書籍については、愛知県図書館も今年から導入している。来年度 1,000 冊増やすということだが、どういった資料を増やしていくかを考えていく上で、指標として考えてみえることがあればお教えいただければと思う。

○事務局（図書館長）

この事業は、障害者サービスとして行っていきたいと考えているので、リフロー型のものを増やしていくということと、紙では味わえない楽しみということを考えて、動画であったり音の出るものだったり紙の本との使い分けを考えて選書をしていきたいと考えている。また、どんな電子書籍が借りていただけるかということも見ながら、今後計画的に冊数を増やしていきたい。

○委員

今ある電子書籍の利用の動向を見ながらということだと、今無い資料で求められるのはどういったものかということ把握する別のルートが必要だと思う。例えば、アンケートを取るなど、考えはあるか。

○事務局（図書館長）

アンケートを取るなどして今無いもので、どういったものが必要かということも把握していきたいと思う。

○委員

セルフ貸出システムは、コロナ禍においては人との接触を避ける良い取り組みだと思う。電子書籍についても、来たくても来られない人に対するサービスということで、大変いいと思う。今、企業も役所も「SDG s」という方向性で色々な取り組みをしているが今回紹介いただいた二つは、誰も取り残さないという SDG s の精神に非常に合致したものである。こういった取り組みは是非続けていただきたい。私も知らなかったもので、より多くの市民に知ってもらうことが一番大事だと思う。色々な PR の仕方があると思うが、広報せとを市民が一番読んでいると思うので、そういったところでどんどん PR すれば多くの人に伝わると思う。そういう人たちが電子図書館に行くと、こんな本があるといいといった要望が出て来ると思う。そういったニーズをキャッチしながら、拡張していてもいいのではないかな。

○会長

こういった新しい取り組みは大変良い。もともとは視覚障害者のためのサービスであるが、そうでない方も自由に使えるのか。本当に、視覚障害者が読みたいと思ったときに、違う方に使われている可能性もあるので、委員の意見にもあったようにどういった蔵書を揃えていくかということも大事になっていくかと思う。視覚障害者のためのサービスということもあるが、コロナ禍の非接触型のサービスが進んでいき、障害者でない方も利用してい

くと思う。そのあたりを十分検討しながら、蔵書の計画をしっかりと立てていただき、選書を進めていただければと思う。

(2) 利活用計画について

ア.骨子について

- ・資料3、資料4に基づき事務局（図書館長）より説明。

○委員

膨大な計画で中身が詳しく分からないところがあるが、改修するのは大変結構だと思う。図書館の面積は増えるのか。また、全国の図書館の新築は流行っているが、前回太田さんに新築された図書館についての講演があった際に、「瀬戸市と、図書館をどんどん作る場所の違いは何か」と質問したところ、「市長が図書館を好きか、応援しているかどうかの違いである」とのことだった。瀬戸市長が図書館を応援しているかは分からないが、少なくとも、市民が図書館を応援すれば、市長も図書館を応援することになると思う。そういったことも含めて、この図書館の改修はどのくらいのことになっているのか。また、資料5は改修した後の様子だと思うが、自分が図書館を利用する際に見ると、新刊本のコーナーに人が集まり、混雑している。（資料5では）人が集まり混雑する新刊本コーナーのすぐ後ろに児童コーナーがありそこで、読み上げたり、話をされたりするのはお互いにやりにくいのではないか。新刊本コーナーを真ん中にし、例えば今の雑誌コーナーのあたりに持って行って、児童の読み上げのコーナーからだいぶ離すほうがお互いにいいのではないかと思う。面積が広くなると楽になると思うがどうか。

○事務局（図書館長）

新館をすぐに建てることは叶わないので、今ある本館・地域図書館・情報ライブラリーに機能を分散させていこうということになっており、今回の改修計画は、本館の面積は1,500㎡ほどであるが、それを広げる計画はない。市長は図書館をしっかりと応援してくださっている。市長にこの改修計画をレクチャーしたところ、このように進めていくようにと言われていた。資料5については次の議題で説明することになるが、新刊コーナーが混雑していることは認識している。児童コーナーでは、親子で来れば読み聞かせもするし、静かな読書環境も欲しいという声も聞いており、それはどちらも大切だと考えており、静と動のゾーニングも改修計画の中で行っていく予定である。

○委員

すごく素敵な骨組みに変わっているが、本館で親子層に向けた読み聞かせはあるようだが、本は児童書も教養本になっていくということだが、地域図書館の方に、親子が重視されるということだが、地域図書館は、平日は学校がありその間の未就園児は、サロンに行くのか。また、開館時間が、今10時～15時だが、これは延びたりするのか。

○事務局（図書館長）

本館の児童書をすべて無くすという考えはない。学校に上がる前の子どもたちはどうす

るのかという点について、それは次の議題でご説明させていただくが、低年齢層向けの児童書コーナーと読み聞かせコーナーも作る予定である。その他の児童書は、今回の本館の書架計画ではテーマ別に本を並べていくことになるが、一般書の中に児童書も含めて並べて混配していくことを考えている。確かに、本館へは平日の早い時間に親子連れで来ているので、そういう方たちは、引き続き本館を使っていただき、サロンという話があったが、地域の公民館に小さい子向けの子育てサロンがあるので、そちらもご利用いただきながら、図書館からそこに読み聞かせの出張に行ったりすることができると考えている。地域図書館は現在、土・日・祝日の１０時～１５時で、今のところ、これを変える予定は無いが、利活用計画にうたっているとおり、必要に応じて、ルール・規則・決めごとは見直していくということなので、全体を見て、今後課題としていきたいと思う。

○委員

私は総合計画に関わってきたので、そういった観点からお話したいと思うが、今回は長期的に色々と考えていただけたと思う。本館の面積はそのままだが、改修して使いやすい魅力的なものにしていくということを考えると、総合計画にあるとおり、是非、新築でないものの市民が誇れるもの、シビックプライドを得られるものにしていただきたい。私も子どものころから瀬戸で育ち５０年くらい経つが、今は残念ながらあまり変わらずにいるので、誇れるものにはなっていないと思う。たぶん、多くの人たちにとっても、図書館が市民の人にとって誇れるものになっていないので、是非とも誇れるものにしていただきたい。その中で、改修されるのは本館だけで、本館のターゲットが大人だとあるが、本館は図書館の象徴であるので、色々な人たちがそこを活用し、若い方から年寄りの方まで多くの人が誇れるものにしていただきたい。ターゲットを絞りすぎて、ここは大人の世界だから、子どもたちや若い子たちはターゲットではないという感じにしないほうがいいのではないかなと思う。面積的なことがあるので、ターゲットを絞ったほうがいいということになったのかもしれないが、若い人・小さい子ども・中高生もここに来て、新しい情報を得たり、居場所空間としてもいいものになればいいと思う。岐阜市出身の学生と色々話したが、岐阜市の図書館は非常に新しくなって、女子高生が図書館に行くようになったという。そんなことは今まで無かったが、そこに行ってみんなで勉強したり、ちょっと本を読んだりということが生まれていると学生から教えてもらった。今は、ここに中高生が来ないかもしれないが、そういった人たちも瀬戸にいいところが出来たなというような場所にしていただきたいと思う。そういった人たちに来てもらうためには、女性や若い人たちにとって、魅力的なデザインにしてほしい。女性や若い人たちがいいなと思うものであれば、僕等にとってもいいものになると思うので、是非そういった感じにしてほしい。

○委員

大変魅力的な計画になっていると思うが、この全体像を動かしていく職員体制について、この中で、人材育成というのが具体的なアクションの一番端の丸の中に、運営や情報編集等をサポートする人材の育成とあるが、これはサポーターさんのことを言っているのか、職員

そのもののことを言っているのかという点をお伺いしたい。人材育成は短期間に出来るものでも無いので、このスケジュールの中でどこを見ればよいかをお教えいただきたい。図書館利活用計画ということだが、何もかも図書館でやりきるのは無理だと思うので、この中では民間活力としか書かれていないが、色々な外部に瀬戸市が持っている社会教育的資産と上手に連携をして瀬戸市の総合計画を進めていけるような視点というか、瀬戸市をこうしたいという中で、図書館はこの部分を受け持って、他の色々な組織であるとか施設と連携しながら、瀬戸市を全体的に底上げしていくよというような、大きなプランが一行でも具体的にあったほうがいいのではないかなと思う。これは、私の私見であるので、お答えは特に必要ないが、人材育成の件だけお願いしたい。

○事務局（図書館長）

職員体制は、かなり少ないが、頑張ってやっていかなければいけないと思っている。窓口は業務委託となるので、受託業者と一体でやっていく。図書館で働くスタッフだけでは図書館が魅力あり活力あるものになっていかないと考えている。市民の皆さんと一緒に図書館を作っていきたい。アクションの人材育成というのは、前回もご説明したが、地域のアーカイブを作っていくというところで、市民参加で行っていききたい。そのためには、市民に丸投げするのではなく、この編集をどのようにしていくのかというところを、養成講座等を行う。その辺の詳細計画を来年度作り、市民とともに作っていきたい。まず、職員が頑張ってやっていかなければいけないと思っているが、市民の方にも参加していただき、市民の図書館を作っていきたいという考えでいる。

○委員

利用者の立場から考えたところ、本館は色々な方が来るので本館はこれだとかがちがちに決めてしまわずに、しかしスリム化していきたいと考えたときに、どの部分をどこへ移そうかと考えるといいのではないかなと思う。それから地域図書館は、サポーターや学校が協力出来ると思うのでいいと思うが、情報ライブラリーは見に行くと狭い。高校生は図書館の外にあるテーブルで勉強をしている。ライブラリーの中に入ってこないというのがあるので、ちょっと手ごわいと思う。魅力ある蔵書が出来るかといったことを考えていただければと思った。

○事務局（図書館長）

役割分担をさせることによって、本館のターゲットは「知識を深めていきたい大人」としているが、皆さんがおっしゃるように、一点に絞るのではなく、そこを重視していくものの、大人と子どもが一緒に来た時に、大人が楽しんでいる姿を見て、子どもも一緒に楽しんでもらえるような図書館にしていきたいと考えている。子どもが来られない施設にするという考えはないので、皆さんの意見を聞きながら上手に作っていったらと考えている。情報ライブラリーは確かにあれだけのスペースなので、館内で勉強するのは不可能である。パーティセと市民交流センター全体で利用いただけるように、その中で図書館としての役割を果たしていきたい。幸いなことに情報ライブラリーの横が、現在はコロナで制限付きになってい

るが、交流広場として自由に勉強できるスペースとなっているので、交流広場から情報ライブラリーを見た時に、楽しそうだなと思って来てくれるよう入りやすい設えにし、魅力ある選書を行っていきたいと考えている。

○委員

人材育成の話が出たが、図書についてアドバイスを受けたりする図書館の司書がもう少ししっかりしているといいと思う。人が少ないので難しいのかもしれないが、そういった相談が出来る人がどこにもいないので、いるといいと思う。また、見知らぬ人同士もこの本はすごく良かったなど図書館に来た人が話し合える場があるともものすごくいいと思う。図書館友の会があるようだが、そういうきっちりした会員ではなく気軽に言い合える場所があればいいと思う。

今の本の選択の仕方はものすごくいいと思う。どういう選択をされているのか、実用的な本もあるし、教養的な本も多くて、新聞の書評欄を見てリクエストしようと思うと、もうすでに買ってある等するので、選択がすごくいいと思う。時々ものすごく難しい本があったりすることもあるし、実用的すぎる本があったりもするが、大体とてもいい基準で選択されている気がする。2、3年前からちょっと実用的な本が多くなったと思うが、選択の基準があれば教えていただきたい。

○事務局（図書館長）

人材育成の点に関して、司書がもっとレファレンス出来るようにということであるが、読書相談等、司書の専門性を発揮出来るようにしたい。業務委託はしているが、スタッフのうち司書は6割以上と仕様書にもうたっているので、司書を十分スタッフに配置できることとなっている。窓口が混んでいてなかなか聞ける状態ではないことや、レファレンスコーナーを設けていないので、聞きにくい雰囲気にあるということもあることが課題である。現在、参考室にレファレンスカウンターがあるので、そこをどのように使っていくかということが課題になってくる。先ほどセルフ貸出の導入についてお話させていただいたが、セルフ貸出を導入することにより、貸出については利用者にご協力いただき、対面でしか行うことのできない質の高いサービスを行っていききたい。

利用者同士で本の紹介が出来るということで、読書会等を今後開催していきたいと思っている。今年度もそのように進めてきたが、コロナによって開催出来ないような状況もあった。利用者の方にもご意見いただいているが、今後イベントが出来る状況になったらさっそく読書会をしていきたい。

選書基準について、厳しい意見をいただくこともあるが、今日はお褒めいただいてとても嬉しく思う。市の職員に司書が揃っており、実際本を見て行う見計らい選書を中心に行っている。また、専門図書館ではなく市の図書館なので、なるべく偏りのないようという選書基準を持っており、本を選んでいる。今後もニーズにあった選書ということと、図書館で揃えていけないといけないものもあるので、そのあたりを踏まえて選書していきたいと考えている。

○会長

資料3について、左側に総合計画の都市像①・②・③が書いてあり、～が育つまちなどフレーズが入っているが、今回の利活用計画の方を見ると、一番上に三つの柱とあるが、三つの柱は何かといったときに、非常に分かりにくく感じる。市立図書館の目指す3つの未来像が一番上に書いてあり、未来像に基づく図書館改革の三つの方向性、具体的なアクションの三つのポイントが書いてあって、柱といわれる感じが分かりにくい。利活用計画としてこれが一人歩きしていく時に、この紙だけで説明できないと説得できないと思う。今日は館長から説明を聞いたので、分かったが、真ん中の骨子も本館と地域図書館と情報ライブラリーで役割分担をしながら、地域をサポートしていくということを骨子としていると思うが、その言葉が無い。骨子というものは何かと言ったときに、本館・情報ライブラリー・地域図書館でそれぞれ役割分担をこなしながら、瀬戸市全体をサポートしていくということが骨子案だと思うが、それが真ん中にも書いていなくて、骨子や柱と言っているがそれが分かりにくい。私は情報が多すぎるのではないかと思う。整理、構造化されていないので、整理していただき、ポイントポイントが分かるように、ブラッシュアップしてもらいたいと思う。これが世に出ていくときはこれだけで理解して伝えていかなければいけないので、それを実現するためにツール・ルール・ロールを決めてそれを積み上げていくと3つの柱は実現できるというふうになっていったほうがいいと思う。説明していただくと分かるが、それをビジュアル的にもう少し分かりやすくするための文言が無いと、これから上にあげていくにあたり、なかなか説得出来ないのではないかと思うので、その点をブラッシュアップしていただければいいと思う。皆様がおっしゃったこと、そのままだと思うのでそこを上手く踏まえてもう少し分かりやすく整理していただければと思う。

イ.本館改修案について

- ・資料5に基づき事務局（図書館長）より説明。

○委員

質問というよりはコメントです。資料5だけでは分からなかったがイメージスケッチや写真を見て大変嬉しくなった。こういった形で費用をかけてやるとなると、予算上の問題が出てきたと思うが、費用はできるだけ節約しつつも費用対効果を考えてほしい。つまり、例えば費用1に対して効果が1と見積もられる場合、費用を1.2倍とはせず0.2はいらないと思うかもしれないが、費用を1.2倍にすることで、効果は2倍になることがある。そういう場合は、その0.2をケチらないでほしい。リノベーションの場合、中途半端なことをすると、「ここは汚いままだね」など、少しのことで全体のイメージが全然違ってしまいます。ちょっと費用と手間をかければ効果が大きく向上する場合、変な所でケチらないでほしいということです。もう一つは、アイディアですが、市民とつくる感があってもいいと思う。例

えば、デッキを作るときは、ワークショップでみんなで作りましょうなど部分的に DIY 的なことがあるとみんなで作る図書館という感じがある。指導する人や専門の方がいるが、少しでも、市民が参加することがあるといいかもしれない。そこで、工賃が削減できれば一番いいが、そこまでは難しいかもしれない。

○委員

2階のボランティア室をよく使うものとして、防音をしっかりとしてほしい。2階はサイレントゾーンということで、今も私たちがボランティア室を使えないのは他のところにうるさいと言われている為なので、お願いしたい。

○委員

子どもも大人も一緒に楽しめるような配架にされるということだったのでとてもいいなと思った。やはり、大人の楽しみを一緒に見ることで、子どももそれに興味を持つこともあるだろうし、反対に、子どもが好きだから大人が付いて行ったことで、親子の会話が広がるといいなあと感じた。

○委員

こんなにいいものが出来たのかと感心している。こういった計画が出来たということはその後地域の図書館とも連携できるような貸出方法を考えていただけるといいのかなと思う。今でも図書館から地域の公民館へ、わざわざ電話をして本を取りに来ている職員がたくさんいる。そういう面も改良しながら地域の方にも連絡が行き届くようなものにしていただけると学校とも連携がとれるのではないか。これからそういう時代になってきたので、自分達も楽しみながら皆さんに楽しんでもいただけるようなことをより一層広げていきたいと思う。また、読まれる方の考え方を少しでも分かってもらえるような、市民へアンケートをとってもいいと思うが、宣伝し知恵をいただきながらやっていただけるといいと思う。

○委員

先ほどから、利用計画の全体像という A3 の紙の話だが、これは読んだらよく分かるがぱっと見て分からないので、A4 くらいの紙に、本館・情報ライブラリー・地域図書館の 3 つぐらいを○で囲んで、その間の関係を 2・3 行で書いてあるような、一見して分かるような紙が別にあった方が、分かりやすいのではないかと思います。2 枚目の紙の最後に SDGs で全国から注目される図書館になるとあるが、どういう点が注目されるのか 2・3 行でぱっと書いてあれば、よく分かると思った。新しい図書館はカフェルームもあって大変好感を持っていると思うが、予算と完成年度をお聞きしてもよいかな。

○事務局（図書館長）

6 月に中期事業計画であげていくが、そこで上手く通ると令和 4 年度に設計、5 年度に工事で、6 年度の 4 月にリニューアルオープンという形となる。予算は、現在イメージスケッチで、いくらかは出ていない。

○委員

私もボランティア室のことだが、サイレントルームに隣接していても、防音をしているの

でおそらく大丈夫だと思うが、ボランティア室もリニューアルしてもらえると良い。練習するにしても、大きい古い机があるだけなので、ボランティア室もああいうイメージに合わせてリニューアルしてもらえると助かる。

○事務局（図書館長）

ボランティア室も防音にし、変えていくように考えている。

○委員

かなり作りこまれたイメージで感心している。あとは計画通りに進むことと、せっかく出来たのであれば上手に運用できる体制をきちんと確保してもらうことがこの後の課題だと思う。

○会長

思い切って変えるのはよいと思うが、これが1発目のたたき台だと考えると、静かなゾーンと賑やかなゾーンが上手くゾーニングされていないと思う。絵本や児童コーナーは一番賑やかな部分なので、その前に一番静かに読みたい新聞をもってきて高齢者の人たちが同居するということはまずい。一番この人たちを離さないといけないと思っている。一階を賑やかゾーンにするということであれば、それはそれで構わなくて、賑やかなところに、静かに読めるところを作るのも構わないが、やはり新聞コーナーの位置は気になる。また、2階の参考室に、小説の9類が置かれるということだが、図書館で一番本が出ていくのは9類である。人が一番来るのは間違いなく、9類の小説のところである。今、1階の一般書と言われているところが、どちらがいいのかなと思う。2階を静かに色々なことが出来るゾーンとするのであれば、考えられても良いかと思う。考え方はそれぞれあり、2階にもにぎわいが欲しいということであれば2階に持っていくのもありだと思う。2階には今までと違う静かな閲覧スペースを、1階は賑やかに読めるスペースを。テーマ別配架も頑張ってもらいたいと思うが、お金をかけると長い間使わなければならなくなると思う。私は、お金をかけるなら、長く使ってもらえるシステムにしてほしいと思っているので、長く使えるデザインかどうか考えてほしい。利用者やスタッフの方が変わっていく時にも、「ここは静かに」等、いちいち注意なくていいような分かりやすさが大事だと思う。ボランティアルームは1階に持ってきて、活動されているのが見えるようにするのが良いということがあれば、それも良いと思う。意見としては、音のゾーニングをしっかり考えていただき、細かいディティールを考えていただければと思った。お金あつてのことかと思うが、もうちょっとやるだけですごく良くなり利用があるというのもあると思うのでそのように計画していただきたいと思う。

（3）その他

○事務局（図書館長）

窓口業務が、この3月で5年契約が終了するため、4月からの業者を2月に選定し、業者が変わることになった。今日一緒に参加していただいているが、株式会社リブネットさんが、4月から5年間受けていただくことになったので、ご紹介する。

○株式会社 リブネット

4月1日から窓口業務委託を受託することとなった。本日たくさん議論された中で、我々も利活用計画をきちんと遂行出来るように運営していきたいと考えているので、5年間よろしくをお願いします。

○会長

今までは、TRC さんだったが、リブネットさんは、学校図書館を中心に運営されているのがお強いところだったが、今回は公共図書館を運営されるということでよろしく願いしたい。

〈発言等なし〉

・議長から引き継ぎ、図書館長が進行

4. その他

○事務局（図書館長）

今年度の図書館協議会は、これが最後になる。今日いただいた意見をもとに利活用計画を完成させ、4月からは詳細計画の方もきちんとしていき、何とか予算獲得していきたい。皆様の力をいただきながら、やっていきたいと考えているのでよろしくお願いします。

来年度はまた5月に予定しているので、日程については、調整させていただく。来年度も2回の開催を予定している。協議会開催以外にも皆様にご意見をいただくことあるので、ご協力いただきたい。

5. 閉会

セルフ貸出システム

新型コロナウイルス感染拡大予防のため、カウンターで対面での図書館資料の貸出、返却の手続きをせず、利用者自身で、貸出の手続きができるサービスである。カウンターで人と人の接触を避けることができる。

<概 要>

- (1) 導入サービス 図書自動貸出システム (PALS) 磁気、バーコード対応
- (2) 導入数 2台
- (3) 内容 利用者自身で利用カードのバーコードと本のバーコードをスキャンし貸出を行うことができる。

<事業の効果>

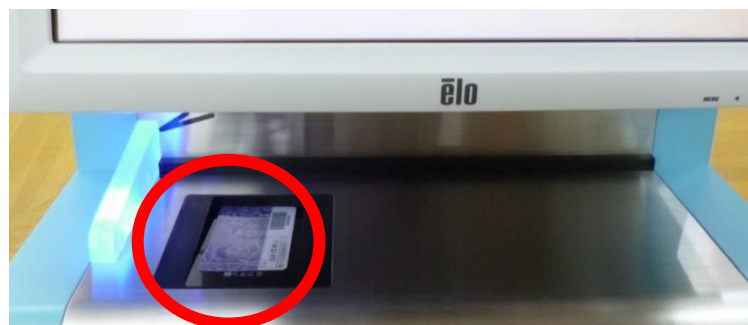
- ・新しい生活様式に対応
- ・カウンターの混雑緩和
- ・プライバシーの保護（借りる資料を人に知られない）
- ・ICタグの導入無しで、現在装着している磁気テープを活かしながら、セルフ貸出機を導入。
- ・窓口サービスの質の向上（レファレンスサービスの充実）



<セルフ貸出 利用手順>

手順①

利用カードのバーコード面を上向きにして置きます。

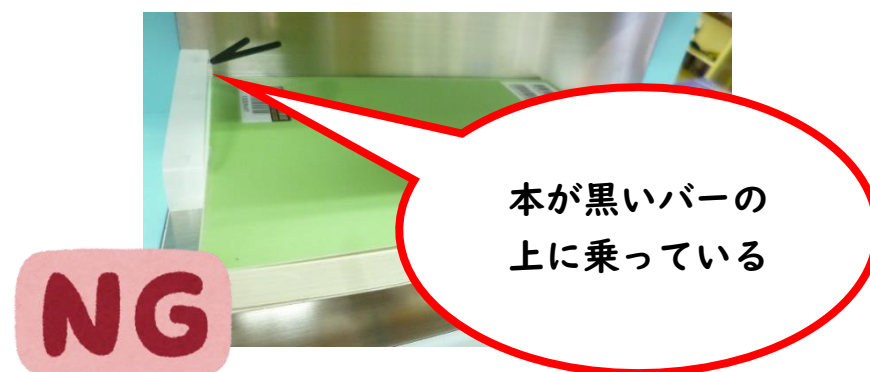
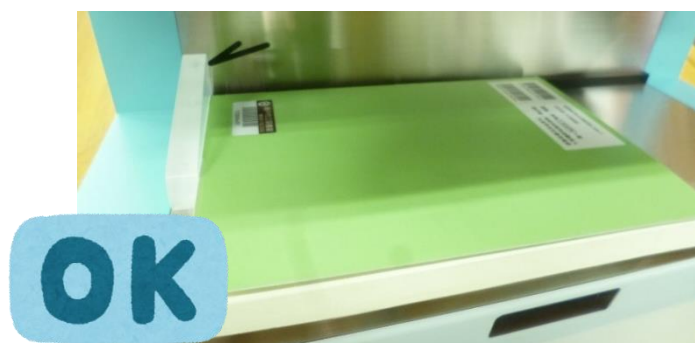


手順②

画面が変わったら資料を一冊ずつ、読み込みます。

瀬戸市立図書館のバーコードを左上にして、本のカードを合わせます。

その際、本が黒いバーに乗らないようにご注意ください。



正しく出来ています
次の本を読み込みま
しょう



手順③

読み込みが終わったら、終る/おわる

ボタンを押して、レシートを取ります。

今回貸出分の本の書名が印字されますので、冊数等を確認してください。

⚠ カードの取り忘れにご注意ください！

次の表示が出た場合、セルフ貸出機では貸出できない可能性があります。

大変お手数ですが、カウンターまでお越しください。



- 延滞中の資料がある場合
- カードの有効期限切れ
- 貸出冊数が10冊以上
- 本に予約が入っている



- バーコード貼り付け位置が特殊な本



- 分厚い本
※何度かやり直していただくと読み込みできる場合もあります。

非来館型図書館サービス（電子書籍貸出事業）

令和元年6月に施行された「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律（読書バリアフリー法）」に基づき、読書における障害のある利用者へのサービスとして行う事業。来館が困難な障害者であっても、自宅等に居ながらお手持ちのパソコン、タブレットやスマートフォンで、24時間いつでも、電子書籍を借りて読むことが出来る。

電子図書館システムは、視覚障害者の方が電子書籍を借りて利用するまでの一連の操作において、独力で出来ることが特徴である。

また、障害者に優しいサービスであることは、誰にとっても優しいサービスとなる。図書館に来ることが難しい方・つらい方、紙媒体の本を読むことが難しい方・つらい方などさまざまな読みづらさを解消できる図書館サービスである。

<概 要>

（１）導入サービス	LibrariE&TRC-DL
（２）導入冊数	800 冊
（３）内容	音や動きのある絵本 53 冊
	オーディオブック 35 冊
	リフロー型 233 冊
	その他 479 冊

※リフロー型・・・文字の大きさ変更・文字色反転・音声読み上げ機能

<事業の効果>

- ・障害者サービスの充実
- ・新しい生活様式に対応
- ・業務の省力化（自動返却、返却督促不用）
- ・省スペース化（書架不用）

<県内図書館の導入状況>

愛知県図書館

一宮市、大府市、安城市、豊川市、西尾市、半田市、小牧市

豊田市（自館でデジタル化した資料の貸出）日進市（オーディオブック）

読書のバリアフリーが始まります

瀬戸市電子図書館



どこからでも、お手持ちのパソコン・タブレット・スマートフォンで、好きな時に**電子書籍**を借りて読むことができます。

サービスの利用は**無料**です。

ただし、通信料は**ご利用者の負担**となりますのでご注意ください。

貸出点数・期間

☆貸出点数 : **2 点**

☆貸出期間 : **2 週間**

☆ 利用については、**利用者カードが必要**となります。

☆ **瀬戸市在住・在勤・在学の方のみご利用できます。**

◇ログイン方法



https://www.d-library.jp/city_seto/g0101/top/

ログイン	
利用者ID	
パスワード	
ログインする	

ログインエリア

TOP ページ左上にあるログインエリアに**IDとパスワード**を入力してログインします。

IDは、**利用者カード番号**を入力してください。(ハイフンなし7桁)

初期パスワードは、**生年月日（西暦8桁）**になっています。ログイン後に、**パスワードの変更が必要**となります。

◇貸出・返却について

・貸出後、2週間経過すると自動的に返却されます。

・貸出の延長はできません。

◇予約について

・貸出中の資料は予約することができます。

・予約は2点まで、置き置き期間は1週間です。

・予約本が借りられるようになった場合は、ログインエリアにメッセージが表示されます。

図書館からの連絡はいたしませんので、ご自身でご確認をお願いします。



◆電子書籍は、**最新のブラウザ**でご利用ください。

(一部のブラウザについては対応しておりませんので、ご了承ください。)

瀬戸市立図書館の利活用計画の全体像案

第6次瀬戸市総合計画

〈将来像〉

住みたいまち 誇れるまち
新しいせと

〈都市像①〉

活力ある地域経済と豊かな

暮らしを実現できるまち

- (1) 地域産業の振興と人材の活躍促進
- (2) 年齢や性別にかかわらず、働くことや
起業・創業に挑戦できるまちづくり
- (3) 地域経済の活性化につながる地域資源
を活かしたシニアプロモーションの展開
- (4) 誰もがいきいきと、安心して働くことが
できるまちづくり
- (5) 市民生活の利便性を高め、企業活動の
活性化につながる都市基盤の整備

〈都市像②〉

安心して子育てができ、

子どもが健やかに育つまち

- (1) ライフステージに応じた切れ目のない
子ども・子育てでの支援
- (2) 瀬戸で学び、瀬戸で育ててよかったと
思える教育の実現
- (3) 多世代が子育てに関わることでできる
まちづくり
- (4) 子育て世代に向けた魅力あふれる
子育て情報の発信と定住の促進
- (5) 都市基盤整備による居住環境の魅力
向上と未来に向けた良好な環境の継承

〈都市像③〉

地域に住まう市民が自立し

支え合い、笑顔あふれるまち

- (1) 誰もがいきいきと、健康に暮らすことが
できるまちづくり
- (2) 高齢者が生きがいを持って活躍し、支え
あいにより、安心して暮らせるまちづくり
- (3) 誰もが自立し、地域で支え合いながら生
きがいをもって安心して暮らせるまちづくり
- (4) 地域の生活環境の向上と安全・安心な
地域づくり
- (5) 誰もが生涯にわたって学び、郷土に対す
る誇りと愛着を深める 豊かな地域づくり

第2次瀬戸市教育アクションプラン

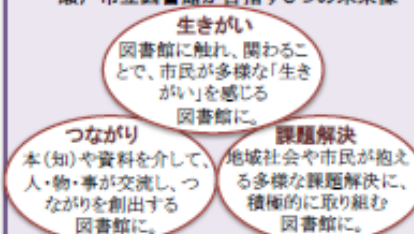
〈目指す姿〉

市民がくつろぎの空間の中で、自ら学ぶ
ことができ、暮らしに役立つ情報を享受し、
市民の学びと交流の場となっている。

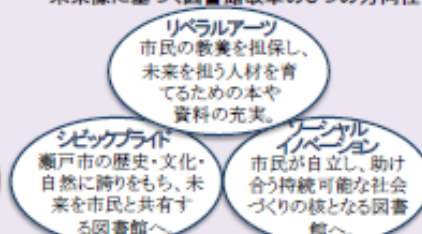
※赤字のキーワードの実現に向け、
「知」の集積と「人材」交流の場として、
図書館の在り方を大胆に改革する。

瀬戸市立図書館の利活用計画(5ヶ年計画)の3つの柱

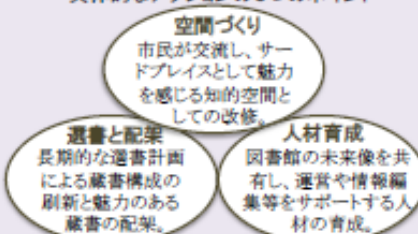
瀬戸市立図書館が目指す3つの未来像



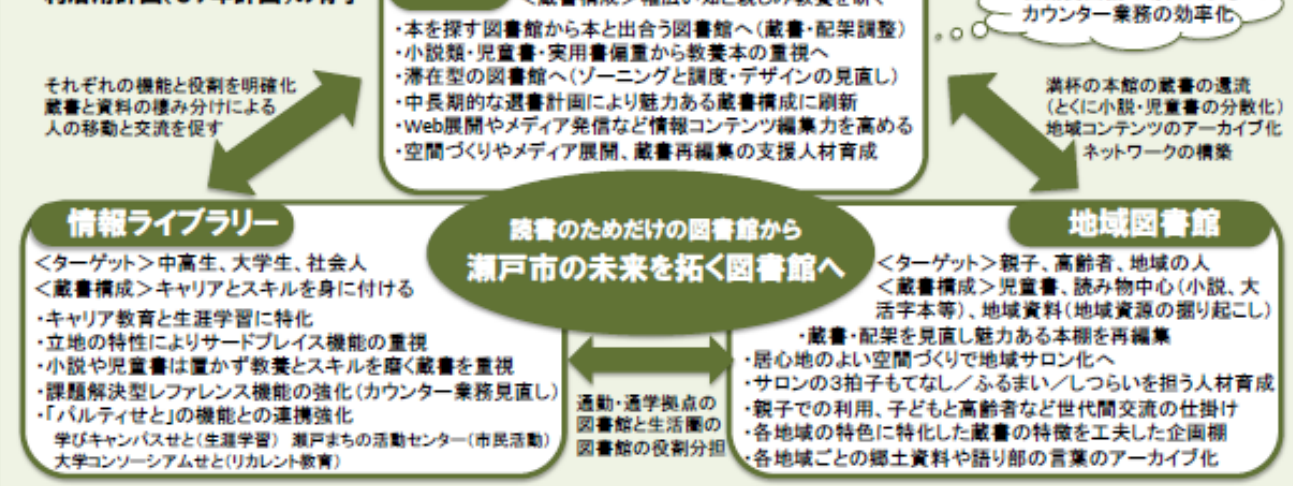
未来像に基づく図書館改革の3つの方向性



具体的なアクションの3つのポイント



瀬戸市立図書館の 利活用計画(5ヶ年計画)の骨子



瀬戸市立図書館の利活用計画実現のための整備計画

ツール(設備・道具)

- ・蔵書管理システムを見直し、自由な本棚編集を実現
- ・調度・内装・照明の刷新で魅力ある空間づくり
- ・Webおよび紙メディアの充実による情報力強化
- ・電子書籍の効果的な導入と利用促進計画
- ・人・事・物の交流を促すツールの工夫

ルール(規則・決め事)

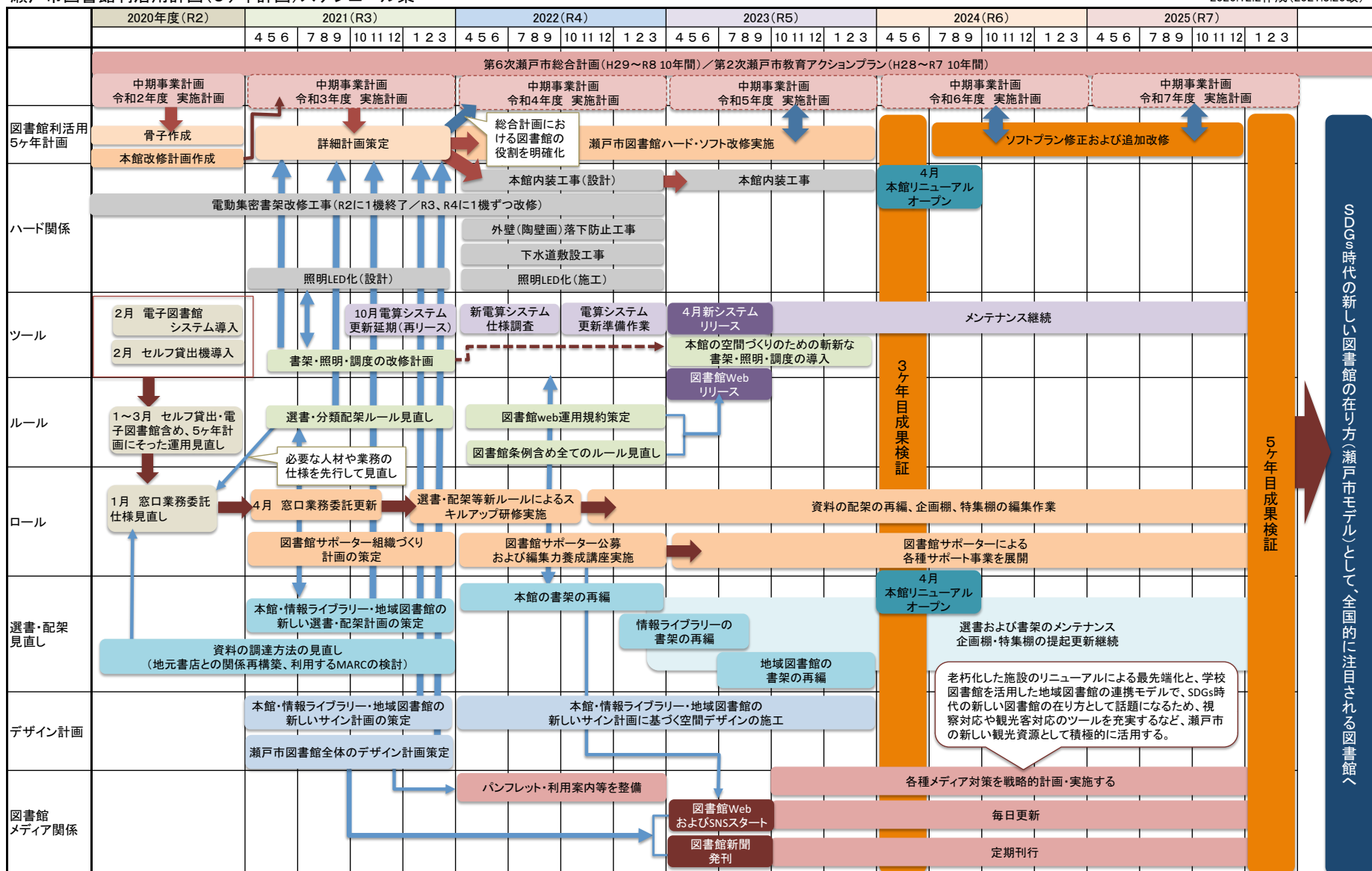
- ・選書ルールと調達プロセスの見直し
- ・リクエスト対応等の選書ルールの見直し
- ・館内ルールから図書館条例まで見直し
→瀬戸市の未来を拓く図書館への改革のため
全てのルールを見直し明示化する

ロール(組織・役割分担)

- ・図書館・書店・その他民間活力の活用
- ・カウンター業務の再構築
- ・市民サポーター組織の再構築
- ・5ヶ年計画の実現に向けた外部人材の登用
- ・インターネットを駆使した交流人材の多様化

瀬戸市図書館利活用計画(5ヶ年計画)スケジュール案

2020.12.2作成(2021.3.20改)



改修スケジュール

